

病院でびっくろ

一宮市立浅野小学校 三年

岩井 利奈



わたしは、小学校二年生の六月ぐらいから、学校を休んで入院をしました。学校の友達にも会えないので、すごくつらくて、わたしは、

「もう、入院なんてしたくない」と、ずっと思っていました。

でも、わたしは、病院のかべにはってあるポスターを見つけてうれしくなりました。そこには、「ホスピタルクラウンのみなさんが何月何日何曜日に来ます。」と書いてありました。

ホスピタルクラウンというのは、病院に来てくれる、真っ赤でまん丸のお鼻がついていて、それぞれ、いろいろなおもしろい名前がついているピエロのことです。病気が長びいている子たちや、入院している子たちが楽しめるように来てくれているのです。

ホスピタルクラウンの人たちは、好きな動物や好きなお花など、それぞれ自分が作ってほしい物を風船で作ってくれます。そして一人一つずつトランプやピンポン玉でマジックをしてくれます。わたしは、みんなは元気なのに、自分だけ体の調子が悪いということがすごくつらくて、かなしかったです。そんな時、楽しいことや、おもしろいことをやってくれるホスピタルクラウンのお兄さんやお姉さんが、体がつらかったこと、悲しかったことを少しだけわすれさせてくれました。

わたしは、夏に退院しましたが、冬になって別の病院で一日だけ検査入院をすることになりました。頭にきかいをつけてベットにいないといけなかったのです。家からもって来た本はすぐに読んでしまったし、遊ぶのもきかいがついていたためにできませんでした。病院にはほいくしさんが二、三人います。一人のほいくしさんが病室に来てくれて、「いろいろなもって来たから遊ぼっか。」と言ってくれました。

わたしは、いくつかある中で、スポンジとけずったせっけんのできるケーキを作ることにしました。せっけんをあわだてて、最後にかざりで、スパンコールやビーズをかざって出来あがりです。作っている時は真剣になって、頭にきかいがついているなんてわすれてしまいました。本物のケーキのように作れたのでうれしかったです。

わたしは、退院してから思い出すことがあります。それは、

「病気の子たちを、マジックやいろいろなお話をして、勇気づけてくれるってすごいな。」

ということでした。

ホスピタルクラウンのみなさん、ほいくしさんのおかげで入院していても少しだけ楽しい思い出ができたのでよかったです。